



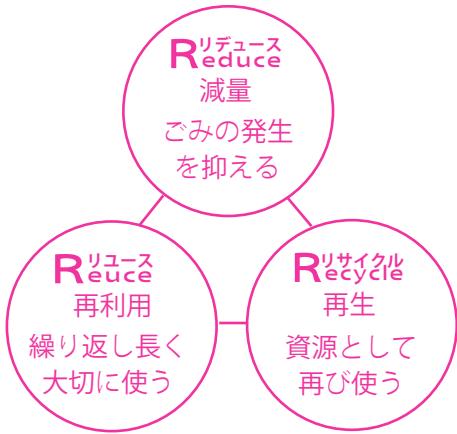
分別のその先は？

ご家庭で分別していただいた「ごみ」がどのようにリサイクルされているか、シリーズで紹介しています。

3Rを意識して行動し、ごみ減量にご協力ください。

家庭から出るごみの中には、資源になるものがたくさんあります。ごみは、分別することで資源として新たなものに生まれ変わることができます。

国は、ごみの発生を抑制し、自然界から消費する資源を有効に使うことによって、最終的に廃棄されるものを最小限に抑える循環型社会を目指しています。この循環型社会をつくるために鍵となるのが、3R（Reduce、Reuse、Recycle）と呼ばれる3つの行動・選択です。



3Rを意識しよう

3Rのポイント

- **リデュース（減量）**
 - ・マイバックを持参する
 - ・必要な量だけ購入する
- **リユース（再利用）**
 - ・リサイクルショップを利用する
 - ・詰め替え製品を使用する
- **リサイクル（再生）**
 - ・ごみを分別してから出す
 - ・再生された商品を購入する

この3Rには、優先順位が①リデュース、②リユース、③リサイクルと決められています。最優先すべきは、分別し資源のリサイクルを行うことではなく、そもそもごみの発生を抑制することなのです。

安来市では、出されたごみは、可能なかぎり資源化を行っています。面倒でも一人一人が分別をさせていただくことで、地球環境の負荷を減らすことができます。廃棄物は、「捨てればごみ、分ければ資源」といわれ、皆さんのご協力が不可欠です。限りある資源を未来につなぐため、3Rを意識して行動し、ごみの減量、分別と一緒に取り組みましょう。

問い合わせ
環境政策課 ☎23・3101

安来市
加納美術館
☎ 36-0880

加納莞菴 人と作品⑤ 「赦しがたきを 赦すといふこと」

フィリピンで裁かれた日本人戦犯をキリノ大統領は退任直前に特赦により解放します（1953年）。そのときの大統領の声明には「自分が赦そうとは思ってもみなかったが、子孫たちに憎しみを受け継がせないために赦す」とありました。

莞菴はキリノに宛てた書簡に「赦しがたきを赦すという奇跡によってのみ人類に恒久平和をもたらし、目には目をということでは決して達成できない」と書き続けていましたが、その内



加納美術館×和鋼博物館
市加納美術館の所蔵品の中から西田明史の彫刻作品を和鋼博物館で5月19日まで展示中。写真は「争える神々」。



▲「薔薇」@加納莞菴。バラは莞菴が好んで描いた画題のひとつです。

容と相通じるものでした。

キリノ大統領と莞菴が直接会ったのは一度だけ。1955年、来日したキリノに会いに東京まで駆け付けた莞菴はまだ絵の具が生乾きのバラの絵を手渡します。

莞菴は布部村長時代に「布部村平和五宣言」を制定。その精神は現在の「安来市平和のつどい」にも生きています。

市加納美術館の最新情報は、公式フェイスブックページ（下のQRコード）をご覧ください。

